

③新たな作目や品種の特徴を活かした需要拡大

緑色大豆品種「キヨミドリ」の効率的活用による豆腐・こんにゃくの新品開発

爽やかな緑色とほのかな甘み、滑らかな食感が楽しめる大豆品種「キヨミドリ」を効率的に活用した商品を開発し、新たな需要開拓を行う。

➤ 連携体

農林漁業者

(株)アグリともあい(農業)

緑色大豆「キヨミドリ」の栽培技術を活かし、キヨミドリ大豆の大量生産に取り組む。

中小企業者

(有)木村食品、(資)鳥丸八十七商店(以上、食料品製造業)

緑色大豆「キヨミドリ」を余すことなく活用し、古くて新しい健康食品である豆腐やおカラ入りこんにゃくを開発する。

連携参加者

熊本県酪農農業協同組合連合会(協同組合)

緑色大豆「キヨミドリ」大豆のおカラを活用したソーセージやハンバーグなどを製品化し販売する。

サポート機関等

熊本県中小企業団体中央会、地域活性化支援事務局

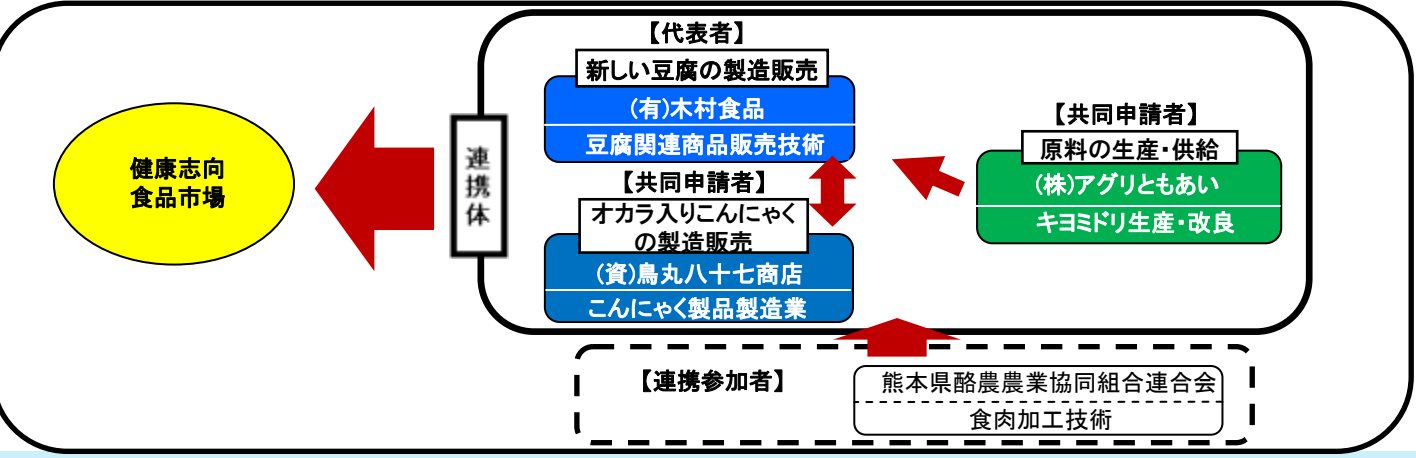
➤ 連携の経緯

(有)木村食品は(株)アグリともあいが生産する緑色大豆品種「キヨミドリ」を活用して豆腐及び関連商品を製品化。おカラについても有効活用するために、(資)鳥丸八十七商店がおカラ入りのこんにゃくを製造、連携参加者である熊本県酪農農業協同組合連合会がおカラ入りソーセージやハンバーグを製品化する連携事業を開始した。



➤ 連携に当たっての課題や工夫等

緑色大豆品種「キヨミドリ」は、県内では(株)アグリともあいだけが生産する希少品種であり、これを原料として作られた豆腐は爽やかな緑色の製品に仕上がりに、食感や風味が非常に優れている。この特性を活かし、従来の豆腐のイメージを払拭したスイーツ感覚の商品を開発し、差別化を図る。おカラについても機能性や多様性を研究し、新たな需要拡大を目指す。



➤ 連携による効果

農林漁業者

4年で300万円の売上高増、キヨミドリの作付面積8ha増

希少品種である「キヨミドリ」の大量生産により、高い収益性が期待される。

中小企業者

4年で4,700万円の売上高増、地元産大豆の利用増

緑色大豆「キヨミドリ」の特性を活かした新たな商品開発により、健康志向食品市場への開拓が期待される。

➤ 代表企業等の連絡先

企業等名	: 有限会社木村食品	所在地	: 熊本県熊本市石原町1-6-16
T E L	: 096-380-6585	F A X	: 096-389-2218
E - m a i l	: toufu-koubou@suo.bbiq.jp		